

## モデルプログラム I-6 日本語指導の計画と実施-学習指導案作成と模擬授業-

ねらい	日本語基礎プログラムの目的や内容を理解して、授業設計の手順に従って学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して授業実践の力を高める。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	I 日本語の指導計画の作成     H 子どもの日本語教育の理論と方法
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	90分 × 2回
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 日本語プログラム「日本語基礎」の目的を確認する。（10分） ・日本語プログラム（I）	1. 日本語指導における「日本語基礎」プログラムの内容と実施上の留意点を文部科学省『外国人児童生徒受入れの手引き（改訂版）』等で確認する。 ・日本語指導のコースにおける「基礎日本語」の位置づけ ・取り扱う内容：音・文字・語彙・文型 ・正確さと適切さ・滑らかさのための練習の違い ・成人の学習スタイルとの違い
2. 日本語の学習活動を体験する。（50分） ・学習活動（H）	2. 「文型」を中心に学ぶ場合の学習活動を体験的に理解する。 講師が実施する次の活動に参加する。 ・文型練習（リピート・代入・変換・結合・Q&A練習） ・タスク活動（インフォメーションギャップのある活動等） ・ロールプレイ（約束をする、教え合う、質問をする等） ・シミュレーション（係りの仕事、日直の仕事等）
3. 日本語の学習指導案を作成する。（30分） ・日本語指導の学習指導案の作成（I） ※次の時間までに完成させてくる。	3. 学習項目（文型）を選定して、学習指導計画案を作成する。 ◇グループでの活動が望ましい。 1) 日本語基礎（文型）の学習指導案例を読み取りながら、計画として何を具体的に決定して指導案に表すかを理解する。 ・対象の実態把握     ・目標設定と指導内容（文型）の選定 ・指導方法と評価方法の決定 授業展開（導入・基本練習・運用練習・まとめ） 評価方法（何を見て、どう評価するか） 2) 対象を設定し、指定された学習項目（文型）に関し学習指導案を作成する。
4. 模擬授業を行う。（60分） ・模擬授業の実施（I）	4. 3で作成した学習指導案に基づき、10分程度の模擬授業を実施する。（授業プランのどの部分を模擬授業として実施するかを明確にして実施） 可能であれば録画し、振り返り活動で活用する。
5. 模擬授業を振り返り、気づいた点について共有する。（30分） ・実施した授業の振り返り（M）	5. 実施した模擬授業の振り返りを書き、気づいた点を話し合う。 1) 模擬授業を振り返る ・対象者に適した目標・学習内容・活動か。 ・目標が達成できる活動展開になっているか。 ・授業者は、発問・指示・学習者への対応が適切だったか。 2) 自身の日々の授業について振り返り、学習指導案作成と模擬授業を通して学ん

	だ点を、今後どのように生かすか考える。
備考	<講義型・活動型>を受けた後、模擬授業を行うことが望ましい(その場合1、2の活動は割愛)。時間があれば、その他のプログラムについても学習指導案を作成し、模擬授業を行う。